

平成25年9月 NO.16

発行：三重耳鼻咽喉科 荏司邦夫・坂井田麻祐子

津市観音寺町 445-15

Tel: 059-228-0100 Fax: 059-228-0133

ホームページ：<http://www.miejibika.com/>携帯サイト：<http://www.miejibika.com/i/>

### <のどの痛み>

この夏は、猛暑続きで、熱中症情報が相次ぎました。9月に入っても、まだ残暑が続いていますね。

夏場の疲れからか、季節の変わり目のせいか、体調を崩される方が多くなっています。その中で、今回はのどの痛みについて、ご紹介します。

のどは、口を開いてすぐに見える範囲の「咽喉頭（いんとう）」と、のど仏の裏あたりで、ちょうど舌の奥の方にある「喉頭（こうとう）」とに分かれています。どちらに炎症があっても、のどの痛みが出ますが、病気の種類によっては、人に移しやすいものや、場合によっては、点滴治療や入院治療が必要となる重症なものもあります。当院で治療している病気について、お話しします。

### <急性咽喉炎>

いわゆる「のど風邪」です。鏡でのどをのぞくと、のどの中が赤くなっていたり、イクラのようなぶつぶつ（リンパ濾胞（ろほう）といいます）ができていたりします。つばを飲むと痛みがありますが、高熱が出ることはあまりありません。軽い抗生剤や、

炎症を抑える薬で治療し、大体数日で治ります。

### <急性扁桃炎>

のどの両脇にある口蓋扁桃（いわゆる扁桃腺）の炎症です。正常時はうずらの卵くらい大きさですが、炎症を起こすと、2、3倍に腫れ上がったり、白い膿が付いたりします。通常、抗生剤の内服で症状が改善しますが、つばを飲み込めないほど痛みが強くなる、のどのつまり感、息苦しさを感ずる場合などは、点滴で抗生剤や腫れ止めを注射します。



中には、扁桃だけでなく、そのまわりにまで炎症が広がってしまい、膿がたまってしまうことがあります。扁桃周囲膿瘍（へんとうしゅういのうよう）という病気です。通常片方の扁桃だけに炎症が起こります。かなりののどの痛みが強く、食事も摂れないため、点滴治療、場合によっては入院治療が必要になります。膿がたくさんたまっている人は、扁桃のまわりに切開を入れ、膿を出すことがあります。完治するには、大体1週間くらいかかります。



### <溶連菌感染症>

のどの痛み、発熱で発症します。熱は38～9度と高く、つばを飲み込むのも痛いので、食事が摂りにくくなります。のどは真っ赤になり、人によって扁桃腺に膿が付くことがあります。

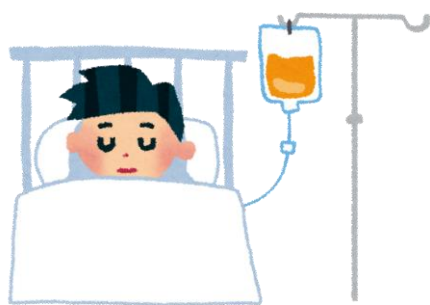
A群β-溶血性連鎖球菌という細菌が原因で起こる、のどの炎症です。子供に多い病気ですが、近頃は大人の方も多数見られます。のどの粘液を綿棒で採取し、迅速検査で簡単に診断できます。この病気のやっかいなところは、①人に移りやすい、②細菌を退治するのに時間がかかる（10日ほど）、③腎臓に炎症を起こすことがある、ということです。抗生剤を途中で止めてしまうと、何度もぶり返すことがありますので、しっかりと10日間飲みきりま

す。尿検査も行い、腎臓に問題が無いかも確認します。家族内で移しあうことも多いため、マスクを付け、食器を共有しないように気をつけてください。

インフルエンザのように、出席停止にはならない病気ですが、熱が下がり、のどの痛みが軽くなるまでは、学校や幼稚園、お仕事をお休みされた方がよいでしょう。

### <急性喉頭蓋炎>

耳鼻科外来で見る病気の中で、最も怖い病気と言ってもよいかも知れません。喉頭蓋（こうとうがい）というのは、舌の奥に付いている、ぺらっとした弁状の部位のことです。本来は、ご飯を食べたときに、気管（息の通り道）にご飯が入らないように、ふたをする役割があります。この喉頭蓋が腫れる病気が急性喉頭蓋炎です。強いのどの痛みと息苦しさがあります。息の通り道のすぐ入り口に、あめ玉が詰まったような状態になりますので、治療が遅れると、窒息したり、死亡するケースもあり、処置が急がれる病気です。外来では、喉頭ファイバーという、鼻から入れる細いカメラで、腫れの具合を診察します。腫れが軽い場合は外来で点滴治療、強い腫れの場合は、緊急入院となります。この場合、近隣の病院へ紹介させていただきます。救急車を要請することもあります。



抗生剤やステロイドというホルモン剤(腫れを抑える)を使い、大体1週間前後で治ります。腫れが強く、今にも息が詰まりそうな人の場合は、のどに息の通り道を作る「気管切開」という手術を施されることもあります。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

のどの痛みと一口に言っても、いろんな状態があります。

これから寒くなり、また空気が乾燥する季節となります。前回のみみよりでお伝えしました「マスク」も忘れず着用し、のどを湿らし、ウイルスや細菌からのどを守ってくださいね。



また、「いつものどがやられる」、「私のはど風邪ばかりひく」と言われる方の中には、タバコを吸っている人、口呼吸が多い人がいらっっしゃいます。タバコの煙やのどの乾燥により、のどの免疫力が低下し、感染を起こしやすくなります。タバコは百害あって一利なし！ぜひ禁煙を心がけましょう。口呼吸の方は、鼻が詰まっている、かみ合わせが悪い、あごの筋肉が弱っているなどの可能性があります。当院や口腔外科などへご相談ください。寝るときの部屋の湿度管理や、マスクの着用も是非お願いします。

今の時代、仕事や子育てなどで忙しく、のどが少々痛くてもガマンしてしまう方々が少なくありません。しかし、ガマンして病状が悪化してしまうと、かえって治療に時間がかかってしまいます。ちょっとおかしいな、のどが痛いな、と思ったら、なるべく早めにご相談ください。

(文責：坂井田)